

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	コミュニティをデザインする (Design for the community)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近代は確かに人は地域コミュニティを必要としなくなった。しかしコロナ禍で生活不安・貧困・孤立等実感し、よりよい社会の在り方を再考するようになっている事を踏まえ、講義の学びから何らかの実践に移ることを目標とする。		
担当者名 (Instructor)	志波 早苗(SHIBA SANAE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	2016年度以降1年次入学者対象科目		

#### 授業の目標 (Course Objectives)

地域コミュニティは人とくらしで成り立っている。そこにどのような問題があるのか、どうすれば解決に向かうのか、自分なりに考え自分なりの解答を見出し、どんなに小さくても実践へと結び付けていくこと、若者がそうした主体性をもつことが、近未来社会の創造で最も望まれることでもある。

What is happening in the community where you live, what problems are there, how can they be solved? Students will think about their own solutions, and identify things they can do practically no matter how small they are.

Learning is meaningless unless it leads to practice, and I also want you to know the enjoyment of putting things into practice.

#### 授業の内容 (Course Contents)

現代の社会問題の根源にあるもの、貧困格差や社会的排除等は身近な自分のくらしに惹きつけて考察する中で真実が見えてくる。現代はグローバルなものローカルなものがかち難い密接な関係にある。傍観者としてはいられない。基礎情報を提供するの、自分なりに考え自分なりの結論を導き、何事にも主体者としての関わりを感じるような講義を心がける。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、それによって、最終的には「よりよい社会のあり方」のイメージに繋げていく。

Where do modern social problems come from? As well as the visible aspects of problems such as "poverty," "isolation/unrelatedness," and "social exclusion," etc., we will consider why these problems exist in society and relate the issues to students' own lives. Students will be able to understand better when they relate these issues to their own lives. The examples have been chosen to facilitate such understanding. Also, we will conduct work so that students can directly feel the inseparable relationship between local and global within these issues. Students will create a concrete image of a better society for themselves as leaders, not bystanders.

#### 授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス～講義の流れとポイント～
2. 日本の社会をどのように捉えるか① 日本人のくらしの変化～近代の振り返り～
3. 日本の社会をどのように捉えるか② 現代の社会問題とその背景が意味するもの
4. 社会的格差を考える① 子ども成長に欠かせない地域コミュニティの関係と実践
5. 社会的格差を考える② 子どもの成長に及ぼす環境の影響
6. 人とくらしの関係を考える① 地域コミュニティを失うということ～東日本大震災から学ぶ～
7. 人とくらしの関係を考える② 「共に生きる」とは～マイノリティと多文化共生～
8. 経済の在り方考える① グローバリゼーションと社会的連帯経済
9. 経済の在り方考える② 社会的経済を推進する市民と若者～韓国事例を学ぶ～
10. 経済の在り方考える③ 持続可能な開発目標と協同組合との関係
11. 市民自治を考える① 大都市での実践～市民事業の成長と自治～
12. 市民自治を考える② 地方都市での実践～まちづくり・人づくり、しごとの在り方～
13. 市民自治を考える③ 過疎地域での実践～若者・よそ者・馬鹿者による地域活性化～
14. 希望の持てる社会とは 講義の振り返りとまとめ

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

ガイダンス及び講義の進行に従い、参考図書、文献の紹介を行う。また、講義の内容の理解を促進する意味でゲストスピーカーから実践報告をしていただく。どの報告も非常に興味深いものなので、本やインターネットを活用して復習してほしい。また、学生の興味に応じて、情報提供や紹介もするので、積極的な態度で履修してほしい。

#### 成績評価方法・基準 (Evaluation)

課題レポート(40%)/リアクションペーパー(30%)/課題ワーク(30%)

#### テキスト (Textbooks)

なし。講義毎に教材・参考資料を事前掲示する。

#### 参考文献(Readings)

1. リチャード・ウイルキンソン、2010年、『平等社会』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-22302-4)
  2. ロバート・パットナム、2017年、『われらの子ども』、創元社 (ISBN:978-4-422-36001-0)
  3. 日本協同組合学会編、1989年、『西暦2000年における協同組合』、日本経済評論社 (ISBN:9784818803367)
  4. 愛媛大学社会共創学部研究チーム、2018年、『大地と共に心を耕せ』、農山漁村文化協会 (ISBN:978-4-540-17165-9)
  5. 日本財団子どもの貧困対策チーム、2016年、『子供の貧困が日本を滅ぼす』、文藝春秋 (978-16-661092-1)
  6. 斎藤幸平、2020年、『人新世の「資本論」』、集英社新書 (ISBN:978-4-08-721135-1)
  7. 宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編著、2021年、『アンダークラス化する若者たち』、明石書店 (ISBN:978-4-7503-5152-0)
- 銭本隆行『デンマーク流「幸せの国」のつくりかた』明石書店(2012年)  
湯浅誠『反貧困』岩波新書(2008年)  
湯浅誠『なんとかする』子どもの貧困』角川書店(2017年)

#### その他(HP等)(Others(e.g.HP))

ゲストスピーカーとの日程調整や、リアクションペーパーから判断して補足が必要だと感じた場合、内容や順番を変更する場合があります。

長い実践経験も踏まえて得たモノを未来のある若者へ提供したいと考えているので、学びに対して真摯な態度を望む。2030年から2060年の近未来で履修生自身がどのように生きていけばよいのか、主体性を自ら育み、利他との在り方をイメージしながらよりよい社会の在り方を考えてほしい。

#### 注意事項(Notice)

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。